

施 策：	06	歴史の継承と文化の振興	財務コード	01090608-07-572
基本事業：	02	歴史学習の機会提供	担当部	教育部
基本事業の 成果指標	歴史・文化に関する学習会等に参加した市民の数 歴史・文化に関する体験学習等に参加した児童・生徒の数		担当課	文化財課
			担当係	博物館担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	平成13年度 ~	新規・継続	継続	会計区分		実施計画
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）		2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）				
市内外からの見学者		国史跡五郎山古墳及び古墳館における下記の事業を行い、学習の場としての適切な公開活用を図るとともに、見学者等の学習要求に応え、館の運営を行います。開館時間（9時から17時まで、月曜日休館）、入館料無料  古墳の出土資料等の見学・学習映像の視聴 可動式実物大模型による古墳石室体験・細部見学 タッチパネルによる装飾古墳の学習 学校休期間における装飾古墳等に関するイベントの実施（ストローを管玉に見立てたアクセサリ、壁画の文様を貼る菜の作成他） ストーンアートについては、博物館で実施 小学校等の団体見学 装飾古墳関係図書閲覧・解説パンフレット（多言語）等の提供				
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）						
五郎山古墳をはじめ、九州の特徴でもある装飾古墳への公開活用を行い、地域の歴史・文化の学習意欲を喚起し、地域の歴史文化に対する理解を深めます。						
4. 成果（簡易評価は未記入）						

成果指標名称	単位	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度	目標
		実績	実績	当初	要求	計画	計画	
来館者数	人	4,410	4,607	5,000	5,000			
装飾古墳アートイベント参加者	人	795	1,210	700	700			
5. コスト								
事業費	計	千円	8,530	10,009	10,750	12,120		
	国	千円	0	0	0	0		
	県	千円	0	0	0	0		
	地方債	千円	0	0	0	0		
	その他	千円	0	0	0	0		
一般	千円	8,530	10,009	10,750	12,120			
正職員人工数	人工	0.3	0.3	0.3				
正職員人件費	千円	2,345	2,407	2,514				
トータルコスト(事業費+正職員人件費)	千円	10,875	12,416	13,264	12,120			

6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）	
あがっている  どちらかといえばあがっている  あがっていない（停滞・低下）	令和6年度の来館者数は4,607人で、昨年度の4,410人と比べ197人増加しました。特に子どもが1,424人から1,724人と300人増となりました。 しかし、石室保護のため石室一般公開の中止（H30:215人）や、タッチパネルを2基設置したことにより従来のイベントスペースが確保できない（現在:6席のみ）ため、以前の入館者数には及びません。 イベント以外の来館者を増やすため、PRチラシの製作に加えて、博物館でのストーンアートの実施、パープルプラザフェスタで五郎山古墳ブース設置する（R4から）など、五郎山古墳館の利用の促進を図るための事業を展開しています。

7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）			
対象動向	維持	類似事業	なし
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし
上位貢献度	影響度は大	業務推進課題	あり
成果向上余地	中程度		

8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）	改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了
--------------------------	-------	----	-----	----	------

改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）	
市内在住者の来館を増やすためには、地元の原田地区以外の地域での認知を高める必要があります。 今後も継続して博物館でストーンアート等の体験イベントの実施や、パープルプラザフェスタで五郎山古墳ブースを設置するなど、広く市民に装飾古墳の魅力を伝え、古墳館への来館を促したい。	
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）	備考・特記事項 or 進行管理欄
平成13年度開館。 平成28年度から令和元年度 保存整備事業を実施。 （古墳館の映像設備等の改修は、令和元年度に実施） 令和3年5月18日で開館20周年	石室保護のため、令和2年度から実物古墳石室の一般公開を中止